

## 14 大学図書館に期待するもの

著者	寺門 臨太郎
内容記述	研修：令和元年度大学図書館職員長期研修 主催：筑波大学 期間：令和元年7月1日～7月12日 会場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2階メディアホール等
発行年	2019-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00157203">http://hdl.handle.net/2241/00157203</a>

# 大学図書館に期待するもの

寺門 臨太郎

筑波大学 芸術系

## ●講義の構成

1. 美術史(学) Art History と美術の歴史 History of Art の方法
2. 美術史研究者がつくられる環境
3. 大学図書館に期待するもの  
⇒ 「もの」としての資料の蓄積と発信

## ●キーワード

- ・ 「もの」 material and/or tangible object(s)
- ・ 至高性／主体性 sovereignty

## (1) 「美術」という制度と「作品」

美術館という場で（制度／枠組みのなかで）目にする展示物

→ わたしたちの文化が恣意的に「**美術**(作品)／アート」と呼び、**価値**づけたもの

→ 元来「**美術**(作品)」は美的な愉しみのためにつくられたとはかぎらない

→ **後世の価値観**で「**美的**」な**機能**をあとづけし文化や素材のちがいを超えた**あらたな文脈**があたえられたものが「**美術**(作品)」(?)

## (1) 「美術」という制度と「作品」

**美術史** art history というディシプリン

絵画, 彫刻 (+ 建築, 工芸) = 「美術 art」  
「造形芸術 die bildende Kunst」

→ 個々の「美術(作品)」を「歴史」という  
時間軸にのせて体系化する研究

→ 「美術」をめぐる物語の批判と再構築  
ストーリー化

→ **美術の歴史** History of Art として記述

## (2) 「傑作」への投資

美術館という場で目にする「傑作」

「傑作」というイメージ ≠ 美術作品

→ 「傑作」と呼ばれるようになるよりも前の  
「美術(作品)」は見ていない(?)

→ 『「傑作」というイメージ』を批判的に見る  
B・クルーガー  
《あなたは傑作の神威に投資している》(1982)

→ 「傑作たるもの」をめぐる  
あらたなストーリーの再構成

## (3) 「もの」としての美術作品の至高性, あるいは「もの」が主張する主体性

「もの」の至高性ないし主体性 sovereignty への意識

→ 「もの」そのものの豊かさへの気づき

→ 「もの」そのものの持続可能なちからへの共感／批判

### ●美術作品は

「常に歴史家がそれについて問うているところのものにしたがって、それ独自の特殊な真理やメッセージを明らかにする」。

(ハンス・ベルティング, 元木幸一訳 『美術史の終焉?』  
勁草書房 1991年 [原著: 1983; 1995<sup>2</sup>] )

## (4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

1793年創設

マサチューセッツ州ウィリアムズタウン

全米リベラル・アーツ・カレッジでトップ・ランキング

→ 「ウィリアムズ・マフィア」

・輩出した美術史研究者は米国屈指

→ 豊かなコレクションをもつ大学附属美術館

・ Williams College Museum of Art

徒歩圏に Clark Art Institute



## (4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

### Williams College Museum of Art

- 美術史専攻の教員， 院生， 学部生のほか隣接諸領域の教員や学生が研究・教育に利用
- 「もの」に即した研究方法の習得
- 「もの」としての美術作品の熟覧方法の獲得
- 所蔵作品・資料を活用した展示実習
  - 「もの」を使った美術史 Art History の実践
  - 「もの」を使った美術の歴史 History of Art のストーリー化

## (4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

### Sterling and Francine Clark Art Institute

- 中世末期から近代のヨーロッパおよびアメリカ美術
- 年間入館者およそ20万人
- **蔵書数豊かな図書室** (1962年創設) = 275,000冊以上
- 閲覧室にはウィリアムズ・カレッジの院生専用机
- 国内外からのvisiting scholarのための助成金制度

## 2. 美術史研究者がつけられる環境

### (1) ふたつの美術史

美術史 vs 美術史 = 大学 vs 美術館  
(組織 [職場] 環境のちがいによる対立)

Charles W. Haxthausen (ed.), *The Two Art Histories: The Museum and the University*, Williamstown (Mass.): Sterling and Francine Clark Art Institute, 2002.

@大学……専らブッキッシュな美術史研究

@美術館……常に「もの」に寄りそう美術史の実践

## 2. 美術史研究者がつけられる環境

### (1) ふたつの美術史

美術史 vs 美術史 = 大学 vs 美術館  
(組織 [職場] 環境のちがいによる対立)

寺門臨太郎・赤間和美 (編)

『シンポジウム「ミュージアムとしての大学キャンパス」』  
筑波大学芸術系・五十殿利治 [科研報告書], 2013年.

@大学……専らブッキッシュな美術史研究

@美術館……常に「もの」に寄りそう美術史の実践

### (2) 愛知芸術文化センター

1992年開館の複合施設＝美術館＋劇場＋図書館

#### ●愛知県美術館

- ・ 1955年開館の前身館による玉石混淆の収集を継承
- ・ 1990年代の日本で他に類をみない予算規模

#### ●愛知県文化情報センター・アートライブラリー

- ・ 美術，音楽，演劇の専門図書館
- ・ パリの美術商旧蔵の図書資料  
「タリカ・コレクション」22,000余冊  
→ 質量ともに国内最高水準のリソース

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

mouseion……ムーサイ mousai の神殿

- ・ギリシア各地に建設
- ・最も有名であったのは在アレクサンドリア

● プトレマイオス父子による学芸の振興  
→ 王宮内に **ムーセイオン mouseion** を設置

→ 80万冊超の蔵書を誇る **図書館**  
天文台, 解剖室, 動物園, 植物園, 宿泊施設

⇒ 展示機能なし

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

galleria

- ・ルネサンス期の西ヨーロッパ

古代遺物発掘ブーム

→ 美的鑑賞という行為／制度の確立

新興都市商人による陳列回廊 galleria の開設  
[フィレンツェのメディチ家など]

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

cabinet, wunderkammer, kunstkammer

- ・大航海時代から植民地時代

非西洋世界へのまなざし

- 情報と「もの（珍品 curiosity）」への熱狂
- 「世界の縮図」としてのコレクション
- power の誇示

- ・動植物や鉱物の収集, 分類, 体系化

- 博物学 *naturalis historia* の本格的成立と発展
- 近代的 *museum* の制度基盤へ



### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (2) オーソライズされたミュージアム組織をもたない大学の知

- ・ 国立の総合大学で唯一，大学ミュージアムなし
- ・ 国立の総合大学で唯一，**芸術**（art & design）に特化した**研究教育組織**と**専門図書館**あり

→ 独自の知のありよう

本来的な「**自由学芸 liberal arts**」のありよう

いわゆる「論文」とは異なる仕方での研究成果発信

→ 「美術(作品)」の至高性ないし主体性を活かした知のショールーム化

#### (3) (机上の) MLA連携議論

- 学外の学術情報の収集から  
学内の学術情報の蓄積と発信へ
- 法による規定の脆弱さ？  
→ 日本の大学図書館は  
設置主体としての大学の一個の傘下組織か
- 「デジタル」アーカイブの非アーカイブ性
- 「**もの**」(図書, 古書籍, 手稿本, 写本等) としての資料の必要性  
→ デジタル資料 過信への警鐘  
(あるいはデジタル化された資料)

#### (3) (机上の) MLA連携議論

植村八潮

『電子出版の構図：実体のない書物の行方』

2010年 印刷学会出版部

フェルナンド・バエス

八重樫克彦、八重樫由貴子訳

『書物の破壊の世界史：シュメールの粘土板から  
デジタル時代まで』

2019年 紀伊國屋書店

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

##### ●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

にもかかわらず

雑誌購入費（各研究組織への運営費等交付金で定期購読）の  
削減につぐ削減

→ 作品購入費や展覧会開催経費等のない  
地方美術館の実績を下回る購読タイトル数

→ 学術資源／資料の枯渇

→ 研究力／教育力の低下に直結

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

##### ●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

- ・ラーニングコモンズ<sup>①</sup>の環境整備  
「ユーリカ」  
芸術専門学群（学士課程）や大学院博士前・後期課程の  
学生によるインスタレーション
- ・知がうまれる環境を象徴する「もの」の展示  
「もの」の至高性や主体性に期待する学術資料  
としての美術作品の公開

### 3. 大学図書館に期待するもの

#### (4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

##### ●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

- ・ラーニングコモンズ<sup>①</sup>の環境整備  
「ユーリカ」  
芸術専門学群（学士課程）や大学院博士前・後期課程の  
学生によるインスタレーション
- ・知がうまれる環境を象徴する「もの」の展示  
「もの」の至高性や主体性に期待する学術資料  
としての美術作品の公開
- ・ポスター・コレクション（データベース2014年で停止中？）と  
蔵書(図録)をリンクさせたテーマ展示